

(様式第3号)

平成17年度調査研究中間報告書

調査研究 課 題	茨城県におけるエイズウイルス(HIV-1)の薬剤耐性変異の動向
計画期間	平成16年度～18年度 3年間
調査研究 計 画	<p>HIV感染症の標準的な治療法として多剤併用療法が定着し、病状の進行を遅らせることが出来るようになった。しかし、変異株の出現が治療を進めていくうえで深刻な問題となってきた。本県は、わが国でもHIV-1の高度感染地域の1つであるため、HIV-1の薬剤耐性変異の動向を把握することは、今後のHIV対策を進めていくうえで大変重要である。</p> <p>薬剤耐性変異の解析を行うために、保健所を窓口としてHIV抗体検査の依頼のあった検体のうちの陽性血清とエイズ拠点病院等の臨床検体について、感染HIVの遺伝子検査を行う。</p>
進捗状況	1999年から2004年までに保健所関連のHIV-1陽性血清23検体について薬剤耐性変異の検出を試みた。
これまでの 成果の 概 要	HIVのプロテアーゼ領域と逆転写酵素領域の配列を解析した結果、1検体の逆転写酵素領域から1つの一次変異(平成16年度)が検出された。平成17年度は検出されなかったが、本県はHIVの高度感染地域の1つであることから、引き続き、注意深く監視していくことが必要であると考えられた。
今後の 計画・課題 対応方法	<p>HIV変異株の出現の動向を調べるためには、全国的なモニタリングシステムの中で研究することが、より効果的である。よって、「厚生労働省HIV検査体制の構築に関する研究班」のメンバーとして共同研究(地方衛生研究所10 研究機関2)を行うこととする。</p> <p>また、県内においてHIV感染症を多く診療するグループとの共同研究も考慮している。</p>

研究成果等の資料があれば添付すること。